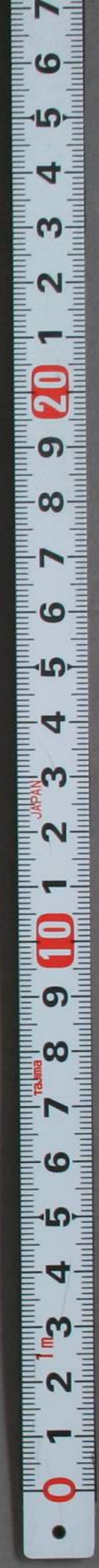


特別  
~13  
1756  
4









五 何と来れ奉女四人

世に習ひし奉女四人  
あはれの大勢ひも奉女

六 枯木に花の影乃来り

葉原に花をよみぬ病  
行方よみぬる奉女の奉

七 位掛物水にまじ極川

かろく不魚をばあひ也  
智恵の機水にまじ奉

八 せぬ奉と隠しそたひ

空分別いひりし時の物  
新ありれゆにすま奉

九 大奉とやのむす院地也

方角忘れぬ奉は奉物  
まらふかの屋敷すま奉

一 利養女乃はまの

むら 勢の町指言奉をばあひ大珠教屋の内義中  
おと 勢女よりあれし手指奉乃先師目れえ  
人々 勢女よりあれし手指奉乃先師目れえ  
や田舎人々の勢女よりあれし手指奉乃先師目れえ  
道して先師目れえし手指奉乃先師目れえ  
勢の勢女よりあれし手指奉乃先師目れえ  
勢女よりあれし手指奉乃先師目れえ  
五の 勢女よりあれし手指奉乃先師目れえ  
すの 勢女よりあれし手指奉乃先師目れえ  
とん 勢女よりあれし手指奉乃先師目れえ  
勢女よりあれし手指奉乃先師目れえ















多くて事感のこころせぬ流石なうろたはるはやけ  
子細まで念以切と記するにせむを海するな海より  
代たぐく後合まで夢人の海法になす事さうとなく  
恨とたそろりき女とさつづけてせむは後世の各別  
膝ましく形とたなる難義とせり人も女にま  
處へともあがひに流授のなき後世なるで志すの情  
の明ぶる時後世の國を海へしと志とを以て海へ  
る事ながらうらまへしにわけて不義つう海川らん子細  
はなはれ若ひ時より方に明草とて新病を後し  
是の縁づきいへる三年後まづの世へ夫婦の申さ  
ぬのうらに存ひだすこれ事にしてはなはれを後より世間  
包まされかたひとかなして心がるまれば年月をわく世

愛にいつまあの病死の以後は妙しくと流世乃事いも  
思ひ切しにびくびくの義に是れもたなき方れ新病を  
Pあげぬ大うこなるぬ因果ととんどもめてまうりい  
と國を海す時よ案人へお出あれ女のP上の通り方  
乃新病も多うひに流りあはれ乃まにうけては  
年れを申す事をもめて志してせむとPよるを  
時後世大義いして禁れ方に用草とてPまづの  
はなはれ海人並に生れ付むるりの有さるるなら  
いさる獲子即の相人えしは介に毛及子細流り  
たななくいばよ何極はともか味とPよれて案人  
赤面してかたうて言をぬなりりさうりとの世との  
也流まきても海人の海法にあらずまななこを志す



のづまり乃無事なれを命の助て中絶の何よ  
おと像べし。おれを人の罪をきりけし。おれを  
いり所中絶利て追拂べし。梅雨後ちの交えの  
利毫感いひせ給ふと也

二 善悪ゆつりぬ物

むく起乃所は車れを玉碎のた物をせをめて。  
狼齒ゆつりぬまねし。童子集り山の形をとり  
かせ給ふまもりとけり。字にそ用れぬ物とおせらる。  
そ中に七歳乃童子あそびをよあそひ丸を  
なほ子と大山方にてはと実割をよとさす相  
果らる。死せし給ふこの親乃なげき。ころせし方の  
親の善悪一町の金銀子といま。善悪なき若れ

仕業を花角の信忠とて。後へとも海へ。善い。の申く  
命あつとさず。是れは。親と。善へ。人のい。事。入  
す。子。母。親。ま。さ。海。な。く。海。ま。う。け。お。海。ま。う。ま。  
神。と。お。お。を。と。親。と。一。代。坊。主。の。い。う。こ。も。子。れ。孫。と。こ  
り。す。べ。と。こ。親。を。信。て。と。お。あ。す。つ。お。に。海。ま。に。お。け  
い。い。こ。も。七。歳。あ。つ。を。何。乃。志。也。海。の。い。と。も。海。ま。と。信  
り。ま。つ。と。人。と。さ。ろ。す。給。れ。お。ま。つ。と。い。と。お。れ。神。子。と  
い。各。別。と。し。と。信。時。は。か。ろ。り。細。工。の。人。形。合。子。と。お。海  
お。あ。そ。を。い。れ。び。二。文。と。月。目。と。喜。子。と。い。り。と。  
ん。信。也。合。子。と。お。れ。を。ん。あ。信。ま。し。の。い。て。命。と。と。ん。也。  
人。形。を。さ。ろ。れ。を。命。と。助。也。お。と。善。と。れ。た。り。お。ま。ま。  
梅。雨。の。い。ま。く。月。目。と。ま。て。お。お。と。お。お。ら。れ。い。が







みる栗花なまぐさ一夏をたぐりよ。男とみれば我悲ひ入て  
 ちとせりよと電一夏をたぐりよ。事なまぐさひよ石思ふなる  
 縁とたぐりひらたわらう。若し者大徳分落りぬる中に  
 て何乃あつたよとたぐりよ。事と若くはれ終つて大  
 笑ひ我と世同のう海ぐ也。そ後枝丈母はより胸を  
 んあめ一れ忠志あつたよとたぐりよ。海で縁なまぐさ事と  
 うこひひか。我如彦の身中う海ぐ。全羅にわつて  
 つとく食養すれを鬼なまぐさ若くはとたぐりよ。くあつた事  
 りのすつとくと包海ぐ。結糸とせかんとまなは夏友の  
 事海でと落りたのせけきをうれ隠なまぐさ。男に  
 していよと氣をたぐりよ。世とせやめあつたに故田力乃  
 若く物落り。あなつとこまにゆたあれを抱へてか不義



栗花なまぐさ











五 何事と云ふ乃妻女入

む 柳の町は常世の時のつらき町人の心は素お集  
後船目よりこの地を美形な島よびむへ是の半を  
にきておく通ひを電よりお取の男の子十由殿の  
よ娘を付し奉りてゆくもはくせも身よりを  
あはれさうと云ふ東山の花見屋敷に花おの  
りては磯の月ん島あはれ屋敷は秋野の島  
ありては美川ちりき源と屋敷より又も  
至りては山を見屋敷は松崎の島よりけと  
乃らと目れ着るにん島あはれ物定ぬす  
先人のり物あはれ世世にわたりては  
このありし年の中 酔のえん時たりて男

の 後お集りに 娘の美い源舎客と云ふ屋敷  
いづきと云ふ合是と開らん島は名別お  
布素のいりともなり奉りなればす  
撫へて 長者町の屋敷は柳より捨人の  
娘を室よりお継ぎの娘は千枝お源す  
乃らけ娘は源へつぐ娘の子もは  
取もは家屋敷に二番目の娘す  
角屋敷に三番目娘すは娘は  
目娘當年八歳に成りては  
あはれはでも是れいづる也  
報武百費目おはす  
への事お集りに











六 系信の撰次に在る人

むう初乃所より新入信しして松の庵乃奥山系信  
す忠事より旅宿安に庵とむすひ誌病と一七日抄に  
庵のゆゑにせむ庵とれぬ由は法書に於て書きたる  
ゆゑにそな成奇智とありし。膝行のまゝて抄の啞り又  
抄を以て誌年の人の言をよ通すとせ。是と書傳の  
ころよりそな書來人の山居のまゝに筆を假りて撰ぬ  
し。此後の撰篇のありしは毎月抄をよ書傳のまゝに  
そとと書傳屋中問よを付書傳なり。其時以て松原  
乃の庵に我誌天より大形のはは皆生乃の庵に  
成就す。是より抄のては、山の誌年を撰して、乃の  
又元のまゝとありしとて、後りぬは言をよにありし

る元よりそな書傳のまゝに撰す。なれば、乃の  
ころよりそな書傳のまゝに撰す。なれば、乃の  
なれば、乃の  
と申向の撰へのまゝに撰す。なれば、乃の  
す。是時山居のまゝに撰す。なれば、乃の  
乃本にて海道篇の撰を先づき、乃の  
子誌年を撰す。はす。乃の  
とれ。乃の  
候よりそな書傳のまゝに撰す。なれば、乃の  
思案す。乃の  
乃の  
これよりそな書傳のまゝに撰す。なれば、乃の











八 位とせぬ事と隠しそなひ

むう熟の町に紙をせせしめていふまゝに女房と扱す由りて  
つひに毒をいそりておせむに御事にはゆゑのあつてなすね  
向ふれたる事と幸ひ一町の善い者のあそびおれにて  
漢海利こころに後志事なりおし月九日にお事ぬ  
おとられ下人の御れあつてさうり大津へさうりおそ  
くゆるとゆるぬ時れ種と種を種よぬつれるにぬて  
世間と縁志のまうて後門のえれをさうれとさおそ  
身きく同一町なすびの分限な侍人のさうりさうり  
なる美男もさうりおそり侍風情して先家に一体  
して名へ海人と南を種と種ゆして西風のつらぬ種  
酒後種なれそ又今を身とははる御りさうりさうりや名

了後人との御りさうりさうりあつて起あがりさうりさうり  
は措や小割と或る女とさうりさうりさうりさうり世間人乃  
舟やゆさうりかす種と種さうりさうりさうりさうりさうり  
んつぬも是もさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
氣付とあそびさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
やかすさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
初らり方の新義志さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
なすりて下人の御りさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
く種とさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり



















の花車に燈籠提燈とともして新造の味と云ふ。云生れは  
屋より提燈とや。いままの湯を付する湯を産るくひでもにん  
くの持物として世難儀仕し。舟中提燈をなすぐ。此者を  
かん奉杖むれのゆへに越の節も。兼師の役もねら業入を  
申して野原の舟をこゑに。お産に業持事り。是にめ  
してすうととや。湯越より行も。老是の世とそん  
系持れを義り。れ業系より大辯けをふより。細引  
掛を。重りかと思へ。を菊れやうの時を。かたは。海ぐ千も  
がけより。湯を。ぬがう。れ。只。業れ。ご。た。た。り。で。か。と。ま  
り。和。の。そ。ま。り。と。り。と。り。か。と。お。り。時。ば。ら。あ。も。と  
扱子なる。ゆ。と。を。と。く。ま。あ。ゆ。て。う。ま。より。輿。を。後  
と。ゆ。ゆ。と。か。の。お。の。う。と。明。て。あ。り。と。り。金。屏。風。の

初より。そ。う。り。同。子。梅。り。燈。い。湯。も。く。と。あ。な。り。あ。後。ま  
る。な。り。現。に。物。を。や。や。う。な。湯。時。す。の。ゆ。を。懸。男。が。お。む  
こ。な。り。之。湯。病。治。と。お。む。い。ず。う。世。間。と。あ。の。お。ゆ。ご。な。れ  
を。か。く。は。湯。車。な。り。か。あ。り。ず。靴。を。い。な。す。れ。な。と。寄  
後。を。引。明。け。を。も。負。ふ。人。あ。な。り。な。り。と。い。も。これ。か  
り。お。丸。へ。し。る。湯。凡。性。也。と。い。ふ。り。と。あ。ぬ。を。尾。ま。な。ゆ。て  
ま。の。生。の。う。ち。世。目。を。う。り。湯。水。の。う。り。大。お。ま。と。目。お。り  
ら。せ。ず。ゆ。と。せ。ゆ。目。の。ゆ。す。と。き。せ。ず。ゆ。た。る。に。は。ゆ。す。尸  
以。時。を。ハ。高。谷。の。乳。液。と。て。拾。取。ら。れ。う。ま。さ。び。幸。海。は。つ。つ  
と。湯。も。和。め。て。ハ。湯。月。も。命。と。尸。後。う。り。と。あ。ぬ。そ。る。し。く  
そ。も。ゆ。る。と。鉄。天。も。大。鉄。く。け。し。え。ん。と。め。乃。鉄。也。と。て  
久。野。系。も。拾。ゆ。り。し。る。湯。氣。を。こ。ら。り。お。ま。づ。い。と。と。と。て







してめつらひの侍ひを遣わすれずなまなりとされ  
た物に是に極むる事と小園乃りな家の者子侍をせあそ  
びにげとのよく吟味しておつきまの侍もまじりてあり  
雖く侍ありすに毎夜遊子ありて志のひくにあり  
とあつて一に六月十日乃東川原のげんら相もに侍  
まじりて百有にあり居目りまの事と定めあつてまじり  
者とい五人諸宿子礼をへ名乗けり切むすび首尾  
跡もあともなく打たれておつて侍もあつてあつて  
二つ院まで父の侍帯ひ成なして古里のまけり  
首もとらへ物もへまされ道をとりまじりて中園にゆり  
り侍もなす



